

ことばで説明しにくいものの説明： ピアノの個人レッスンにおける演奏の言語表現

仁平 義明

(東北大学大学院文学研究科)

問題と目的

ピアノの演奏者側の最終出力は、鍵盤上およびペダル上の運動である。ピアノの個人レッスンで、教師が生徒に演奏を教えるとき、示範などの非言語的な教示に依存するだけでなく、必要に応じて言語的な教示を用いなければならない。しかし、本来、運動は言語的な表現に変換しにくい (Bruner, 1967)。ピアノの教師は、この困難な課題をどのように行なっているか、すなわち、生徒に演奏の運動をどのような言語表現を用いて教示しているかを分析する。

方法

ピアノの個人レッスンを録音し、分析した。教師は、ピアノの個人レッスンを行なっている宮城県内の 25 人の女性 (年齢は、21~39 歳、平均 26.6 歳。ピアノ教師経験年数は、1 年から 16 年 10 か月、平均 5.53 年。

22 人の教師では、2 人のレッスンが録音された。2 人の教師については 1 人分のみ、1 人の教師については 3 人分のレッスンの録音。生徒は、幼稚園児 8 人 (女児 7 人、男児 1)、小学生 33 人 (女児 32 人、男児 1 人)、中学生 8 人 (男子 2 人、女子 6 人) であった。生徒の年齢は、5~15 歳 (平均 9.12 歳)、ピアノ学習平均年数は、4.0 年 (5 か月~9 年 10 か月) であった。

結果と考察

レッスンの教育目標、内容構成、使用テキストほか、の要因についても分析が行なわれたが、ここでは、そのうち、部分的な結果について報告する。

レッスン中の教師の行動は、(a)「言語的介入 (発言)」と (b)「非言語的な介入」に大別できる。さらに、それぞれがいくつかの下位のカテゴリーに分けられた。教師が生徒の演奏を誘導するのに「ララー」「いち、にい、さん、し」などと歌うことは、言語内容には特別な意味がないので非言語的な介入として分類した。

主な結果は、次のようなものである。

(1)強化:「教師による正の強化」(誉め)の回数は、生徒の年齢が低いほど多い傾向があった (年齢と正の強化回数の相関は、 $r = -.305$ 、 $p = 0.052$)。幼稚園児が 30 分あたりのレッスンで受ける正の強化は、平均 13 回、小学生は 8.8 回、中学生は 8.1 回であった。しかし、この強化頻度 (誉め頻度) は、アメリカの研究者 Kostka (1984) のピアノレッスンの研究でみられた誉め頻度の半分以下である。ピアノのレッスンでも、日

本の稽古事の伝統、「誉めない」文化が確認される。また、強化頻度は教師の個人差もかなり大きい。

(2) 比喩の使用:「比喩の使用」は、低年齢で多かった。幼稚園児のレッスンでは平均 1 回の比喩の使用があり、中学生では平均 0.29 回であった。幼児には、わかりやすいように比喩 (例:「まりつきじゃなくて、横におそうじ」) を用いる傾向がある。

(3)レッスンの4要素:ピアノのレッスンについて、仁平 (1990) は、生徒が進歩するために教師が与えるべき情報には次の 4 つの要素が含まれていなければならないことを主張している:①目標 (どのように弾くべきかモデルとなる最終所産の提示)、②問題 (どこがどのようにまずかったのか)、③原因 (なぜそのような問題が生じたかの説明)、④治療法 (どのようにすれば目標に到達できるのかの具体的な解決法の提示)、すなわち、「目標-問題-原因-治療 (解決) 法」の 4 要素である。このうち演奏上の「問題の原因」の指摘は小学生以降の段階でみられ、「問題の解決法」の言及も有意ではないが年齢とともに増加した。これらの介入を行なうかどうか、教師による個人差が大きかった。

このように、教師の教授ストラテジーの選択には生徒側の要因が影響するが、同時に教師の個人差要因が働いていることが示唆された。

(4) 運動の言語表現

ピアノ教師が用いた演奏の運動表現は、次の 5 つのカテゴリーに分類できるものであった。

- ①運動時の骨格筋や関節の状態 (例:ひじの力を抜いて)
- ②運動プログラムのパラメータ設定 (例:強く、はやく)
- ③運動の筋肉運動感覚的フィードバック (例:鍵盤の底を感じて)
- ④運動の空間的表象 (例:雲が流れるように、右へ)
- ⑤運動によるピアノの出力印象 (例:やわらかい音で)

これら運動表現の使用は、生徒側の要因とも関連するものであるが、教師の言語的なスキルにも依存すると考えられる。今後は、こうした言語表現のコーパスを作成し、ピアノ教師が共通に利用できるようにはかることが期待される。

*本研究は、科学研究費補助金 (萌芽研究 18653077・代表者仁平義明)「ことばで説明しにくいものの説明:運動の言語的説明に関する研究」の一部である。協力していただいたピアノの先生・生徒のみなさんには深く感謝する。また、報告者の心理学の講義の受講生であり、録音の書き取りに協力いただいた山形大学音楽科の学生諸君にも謝意を表す。

